

### 第3 A (小) 分科会 教育環境整備に関する課題

提案主題 「チームとしての学校」を実現させるための教育環境整備に関する教頭の役割  
協議の柱 (1) 人的環境、職場環境の整備を進める教頭の役割  
(2) 学校教育課題の改善に向けた環境整備を進める教頭の役割

提言者 佐伯市立切畑小学校 河野 理

#### 1 質 疑

- (1) Q 教務と教頭・教務と他の主任との連携についてはどうか。  
A 今年の教務に加え、昨年の教務の経験やノウハウを最大限生かした形で、学校経営や分掌の取組に関わってもらっている。
- (2) Q 教頭が全員の児童の名前を覚えている、PTA会員の全員参加、難聴児童への配慮などが素晴らしい。どのように取り組んでいるのか。  
A 児童と毎日遊ぶ、給食を一緒に食べることでつながりを持つ。難聴児童の件では聾学校や市教委との連携が大事であり、教頭はその窓口になってきた。

#### 2 協 議

- (1) 地域により人的配置や職場環境の問題が違う中、環境を整えるために効果的なことが何点か出された。運営委員会の持ち方や主任の役割の明確化、組織としての取組方等に工夫ができる。その中で、教頭として一人一人にどのようにかかわっていくか、コミュニケーションの取り方等がポイントとなる。特に若手教員の指導においてはOJTによる指導、メルタル面でのサポートをきめ細かに行う、偏りのある年齢構成での連携の工夫などが話し合われた。とりわけ、職場の好ましい人間関係、風通しのよい職場作りに教頭として努めていくことが大切であることが確認された。
- (2) 教育課題も地域や学校によりさまざまである。そのベースに危機管理として安全面への配慮を第一に考えることが大切である。いろいろな職種が連携し合い、「チーム学校」を実践できるよう努力し、共通の目標で取り組むことが大切である。また授業改善や不登校対策、支援を要する児童への対応などで、それぞれの学校が取組をしている。校長、教頭、主任の意思疎通を大切にして、全教職員で取り組むことが必要である。

#### 3 指導助言

「チームとしての学校」を実現させるための教育環境整備には、信頼関係づくりを基盤とする必要がある。提言者は改革の意欲をもち職員にいろいろな形で接し信頼を築いてきている。教頭としての経験や知見をもとに、実際に行動して見せたり、環境を整備したり、授業の支援をしたり、研修に関わったりしている。また主要主任が学校運営に参画している。支援学校・聾学校・医療機関・福祉施設等関係機関などとも連携しながらチームとして取り組んでいくことが大事である。教頭に求められるものは、職員や地域との「信頼関係づくり」である。